

## ＜材料化学システム工学討論会 2025＞ 報告書

幹事

菅原勇貴(東京科学大学)(文責)

平出翔太郎(京都大学)

杉目恒志(近畿大学)

2025 年 9 月 9, 10 日に明治大学 駿河台キャンパスにて材料化学システム工学討論会 2025 が開催された。詳細は下記の通りである。

|              |                                                                                           |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講演者・<br>講演題目 | ～9 月 9 日（木）～                                                                              |
|              | 13:00～13:05 開会・集合写真(初日)撮影                                                                 |
|              | 13:05～13:10 材料・界面副部長（鹿児島大学 武井孝行 教授）挨拶                                                     |
|              | 13:10～14:40 【依頼講演】「二分子膜分子集合体における濃度依存的分散・凝集挙動」<br>兵庫県立大学（正）田口翔悟 氏                          |
|              | 14:45～16:15 【依頼講演】「合成化学とコロイド界面化学の融合で拓くナノ粒子「分散安定性」の学理」<br>東京農工大学（正）岡田洋平 氏                  |
|              | （休憩）                                                                                      |
|              | 16:25～17:55 【依頼講演】「マイクロリアクターでの混合・反応挙動が粒子合成プロセスに与える影響」<br>九州大学（正）浅野周作 氏                    |
|              | ～9 月 10 日（金）～                                                                             |
|              | 9:00～10:30 【依頼講演】「コロイド粒子の運動と集積構造の可視化に基づく材料設計」<br>東北大学（正）渡部花奈子 氏                           |
|              | 10:35～11:15 【学生講演】「滅菌処理を利用した医療用ヒドロゲルの開発」<br>鹿児島大学（学）山下祐典 氏                                |
| 会場           | 11:20～12:00 【学生講演】「細胞表面マーカーの高感度検出に向けた共役ポリマーナノ粒子の DNA 介在 om-membrane 集積化」<br>東京大学（学）前田悠希 氏 |
|              | 12:05～12:10 集合写真(2日目)撮影、総括・閉会の挨拶                                                          |
|              | 明治大学駿河台キャンパス<br>〒104-0031 東京都千代田区神田駿河台 1-1                                                |
| 聴講者数         | 22 名(産 0 名, 学 22 名)                                                                       |

(次のページに続く)

【集合写真】



【備考】

2025 年度は昨年度に続きオンサイトでの開催ができた。2 日間で一般講演者 4 名，学生講演者 2 名という，コロナ以前の日程・ボリュームにて実施された。参加者は 22 名となり，昨年度と同様にコロナ前と変わらない盛会となった。本討論会の特徴である討議が活発に行われ，発表時間が足りないほどであった。懇親会も盛り上がり、さらなる意見交換などが行われた。

2026 年度の主幹事は京都大学の平出翔太郎氏，副幹事は東京農工大学の甘利俊太郎氏である。

以 上